

進捗状況報告シート

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	人間福祉研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価 (就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与 (卒業・修了判定) は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策 (院) (専門)

II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究科における教育成果の内容を検討し、成果を評価するための具体的な基準や指標の設定する。	→大学院諸問題検討委員会による上記課題に関する年4回以上の検討委員会の開催。	B	B			
2. 研究報告会を開催したり、研究成果の報告機会を設置する。	→年1回の研究報告会の実施。	A	A			
3. 研究科における教育全体を評価する全体的なシステムの導入を検討する。	→大学院諸問題検討委員会による大学院システム評価に関する年4回程度の定期的な検討委員会の開催。	D	C			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目 6.4.1	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 (説明) 2010年度は、大学院の教育課程やカリキュラムについて見直すことを中心に行ってきたために、教育成果に関する評価指標の開発等については十分に検討し、取り組むことができなかった。学生による授業評価はすでに実施しているが、卒業後の評価についてもまだ取り組めていないのが現状である。評価指標の開発と卒業後の評価の実施は今後の課題である。
☆ 小項目 6.4.2	6.4.2 学位授与 (卒業・修了判定) は適切に行われているか。 (説明) 学位授与基準、授与手続きについては授業科目履修心得やホームページ等で明示され、公表されている。それらの適切性についてであるが、学位授与審査は審査会や発表会等を開くことにより確保している。
その他	

《評価指標データ》

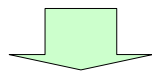
各学部における学生の進路状況
 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
 在学生のうち「この大学で人生の一時を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
 修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
 KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
 3年卒業の適用者数
 ジョイント・ディグリーの授与者数
 標準修業年限未満の修了者の数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	後期博士課程の大学院生の研究成果に関する報告会を毎年2月に実施しており、2010年度も同様に実施した。従って、年1回の研究報告会を実施していることになる。



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

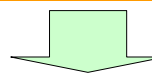
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	修士の大学院生の年1回の研究成果については、研究報告会という形では実施していないので、今後修士大学院生の研究報告会の実施を検討していく。

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○率直な自己点検・評価がなされていると評価できます。「今後の課題」への取り組みが注目されます。

【学内委員】

○教育成果の評価について、検討課題のようですが、進展が期待されます。

○研究成果に関連して、前期課程・後期課程ともに、研究成果に関する報告会が開催されていることは評価されます。しかし、2010年度が完成年次であったので、「卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)」(修了生の進路)に関する現状説明も期待されます。

○学習成果の評価指標の開発は困難な課題ですが、取り組みが進むことが期待されます。

○小項目6.4.2については、学位授与基準、学位授与手続きの概略を示していただきたいと思います。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.4.1

基盤評価：なし

達成度評価：「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用」に努めている

○小項目6.4.2

基盤評価：「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」「学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準(学位論文審査基準)を明らかにし、これをあらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」

達成度評価：「学位授与方針に従って学位授与を行っている」

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○小項目6.4.2 (説明)

★ 学位授与方針については、前期課程の修了要件として、1) 2年以上の在学、2) 必修科目14科目を含む34単位以上の単位修得、3) 修士論文審査合格の3つがある。後期課程は、1) 3年以上の在学、2) 必修科目14単位の単位修得、3) 博士論文審査合格の3つがあるが、これ以外に内規において博士学位キャンディデートのシステムを明示している。具体的には入学後2年間で学会発表を2回以上行い、また論文を2編以上投稿・採択されており、博士学位申請論文中間報告書を提出し口頭試問に合格したものがキャンディデートとなり、その後、1年以内に博士論文を提出することとなっている。前期課程については、上記の学位授与のシステムに従って在籍している前期課程の学生に対して修士学位を授与している。また、後期課程については、キャンディデートのシステムに従って2010年度は2名の学生が博士学位申請論文を提出し、外部審査委員も含めた複数の審査委員によって厳格に審査がなされ博士学位を授与している。